

視聴覚教育時報

No.740 2023年 10月号

contents

- ▽視聴覚教育・放送教育全国大会合同大会 生涯学習部会について
- ▽オンライン交流会を実施しました（9月19日（火））
「16ミリ映写機操作講習会の現状と今後の方向性」
- ▽全国視聴覚教育連盟 功労者表彰を受賞して
- ▽えすけーぷ

▽視聴覚教育・放送教育全国大会合同大会 生涯学習部会について

令和5年度視聴覚教育・放送教育合同全国大会は、時代に即した視聴覚教育・放送教育に関するワークショップ・セミナー、全体会、実践発表、教材・機材展示などを行い、最新の視聴覚教育・放送教育、ICT教材・機器に関する情報を参加者に提供することを目的に、令和5年11月11日（土）に開催します。今年度も昨年度に引き続き、オンライン開催となります。生涯学習部会の実践発表やセミナーの内容が下記のように決まりましたので参照下さい。

◇セミナー（10:00-12:00）

「視聴覚教育関係者が知っておきたい著作権の最新動向」

講師：福岡教育大学 大和 淳 教授

著作権法は、著作者の権利を守るとともに、正しい著作物の利用を促すためのルールです。近年のデジタル化・ネッ



トワーク化の急速な進展により、創作や流通、利用の環境が大きく変化し、著作権法もそれに合わせて改正されています。本セミナーでは、福岡教育大学教授で元文化庁著作権課課長補佐の大和淳先生に、最新の著作権に関する動向を解説していただきます。

◇実践発表1（13:30-14:10）

「仙台市における自作視聴覚教材制作の取組みとデジタル化について」

発表者：仙台市教育委員会 間宮 智也氏

仙台市教育委員会では、視聴覚メディアを活用した学習を支援するため、地域映像教材ソフト開発事業として、地域映像教材の制作委託および自作視聴覚教材審査会に取り組んでいます。また、制作された作品は「せんだいメディアテーク」のホームページで視聴および活用することができます。

◇実践発表2（14:15-14:55）

「令和4年度全国視聴覚教育連盟調査研究を基に考察する」

発表者：全国視聴覚教育連盟専門委員、東映(株)教育映像部 中鉢 裕幸 氏

令和4年度全国視聴覚教育連盟調査研究プロジェクトにおいて「オンライン学習への対応策構築に向けた調査研究」を行いました。この研究は、集合学習が困難になってきているコロナ時代の新たな実現可能性のある学習提供策を検討するために、ホームページ調査により、教材のオンライン視聴とオンライン講座の取り組み状況を調べ、事例分析を行いました。本報告では、自作教材のデジタル化を中心とし、調査結果を踏まえた自作教材の

デジタル化推進策を考えるとともに、市販教材のデジタル化について、教材供給者としての立場からのご意見をうかがいます。

<全国大申込> (申込締切 11/9 (木))

<https://www.ave-hoso-2023.net/form/>

(参加申込サイト)

<https://www.javea.or.jp/soutai/pdf/20230904-annai.pdf>

(二次案内ページ)

Time schedule

10:00	セミナー 1	セミナー 2	セミナー 3	ワークショップ 1	ワークショップ 2	ワークショップ 3
12:00	全体会 12:15-12:45					
12:15	1.開会行事・功労者の紹介 2.NHKプレゼンテーション					
12:45	昼休憩					
13:30	実践発表 1	実践発表 2	実践発表 3	実践発表 4	実践発表 5	実践発表 6
15:10	発表 A 13:30~14:10 発表 B 14:15~14:55 講師ミニ講演 15:00~15:10					

申し込み・参加方法 **参加費 1,000円**

下記の URL からお申し込みください。
<https://www.ave-hoso-2023.net/form>

- お申込み完了後参加 ID とパスワード及び大会 Web サイトの URL をお知らせします。
- 大会当日は、大会 Web サイトにアクセスしていただき、ID とパスワードを入力してご参加ください。
- 大会 Web サイトへのアクセス、Zoom への接続の連絡は参加者にてご負担ください。
- 情報モラルの観点で ID とパスワードは個人で管理してください。
- 11月下旬、大会 Web サイトに大会要項を掲載します。(随時更新します)

問い合わせ先 taika@javea.or.jp

全国放送教育研究会連盟事務局
〒150-8001 東京都渋谷区神宮寺2-2-1
NHKメディア総務局センター内
TEL:03-5451-4310 FAX:03-3481-1372
<http://www.zenporen.jp/taikai>

一般財団法人 日本視聴覚教育協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-1-81
TEL:03-3431-2186
<https://www.javea.or.jp/>

令和5年度

第27回 視聴覚教育総合全国大会

第74回 放送教育研究会全国大会

合同大会

今年も豊富なLine UPI! 詳しくはP2-3をCheck it out!

参加費 1,000円
申し込み方法は4ページ参照

大会テーマ
未来社会に向けて
生涯にわたる学びを変える
メディア活用

令和5年(2023年)
11月11日 ±
オンライン開催

AM ワークショップ
PM 実践発表

今5月5日、私たちは3年以上にわたり様々な活動を制限された新型コロナウイルス感染症というトンネルをようやく抜け出すことができました。そして、子供たちの日常も大きく変化しました。学校は、再開に向けてICT環境を整備し、Zoomや5.0社会と日々進化するものの対応に追いつかざるを得ない状況に陥りつつあるのではないかと感じています。そのような状況だからこそ、ICT環境の活用に関心が高まり、期待も高い「視聴覚教育・放送教育」の果たす役割がますます重要だと感じています。今年度の大会も、会場参加からより多くの方に会場参加を体験いただけるようオンラインで開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

主催 全国放送教育研究会連盟 NHK
視聴覚教育総合全国大会実行委員会

AM ワークショップ・セミナー 10:00-12:00

セミナー 1 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた放送番組およびICT環境の活用 10:00-12:00 講師 東田洋史 大和 博史

講師の堀田先生に加え、実践者に登壇していただき、テーマである「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた放送番組およびICT環境の活用」について、実践者を紹介してまいります。堀田先生のコーディネートのもと、実証への質疑応答や議論を深めるワークを通して、授業改善に役立つヒント(IGIGA端末の活用、放送番組の効果的な活用、新しい授業スタイル等)をお届けいたします。

セミナー 2 1人1台端末時代だからこそ考えたい、教材コンテンツの創り方 10:00-12:00 講師 岩田 孝 明彦 孝

様々なデジタル教材を開発することができるようになりました。本セミナーでは、その中から手取りと光る教材を見つける目的、効果的な教材を自作する際のヒントなどについて考えていきます。ゲーム性のある教材や、マンガ形式の教材など、講師が興味に関わったユニークな「動画教材」をいくつか取り上げ、開発の裏面「はたやったわ!」について解説します。

セミナー 3 視聴覚教育関係者が助けておきたい著作権の最新動向 10:00-12:00 講師 福岡教育大学 大和 淳

著作権法は、著作者の権利を守るともに、正しい著作物の利用に関する指針となります。近年のデジタル化・ネットワーク化の急速な進展により、創作活動、利用の範囲も大きく変化し、著作権もそれに合わせて改正されています。本セミナーでは、福岡教育大学で元文化庁著作権課課長役の大和淳先生に、最新の著作権についての動向を解説していただきます。

ワークショップ 1 放送番組とSDG教育実践のデザイン 10:00-12:00 講師 明治大学 岸 麻美子

SDG教育への取り組みが進められる中、学びのリソースとして放送番組が活用されています。子どもが自分なりにテーマと出合いを促すためには、自分の視点を持つことが重要です。本セッションでは、子どもが自分なりの視点でSDGを捉え、ことばにしているためのアプローチについて、外国人児童が多く在籍する区立立山小学校5年生の多文化共生の事例をもとに議論します。

ワークショップ 2 NHK for Schoolを活用したデジタル絵本づくりのワークショップ 10:00-12:00 講師 名古屋市立大学 藤岡 竜平 山口 裕輝

「キミなら何をつくる?」を視覚し、身の回りのものを写真に撮ってキャラクターに見立て、デジタル絵本を制作しましょう。後半は番組視聴を通して、制作した絵本の発音についてアイデアを求めます。ICを活用することで、絵本を多くのお手紙でアイデアはたくさんある。という子どもたちにも活用可能になります。ワーク全般を通して、みなさんと一緒にアイデアや気づきを共有しながら進めていければと考えています。

ワークショップ 3 SNS指導改善ワークショップ 10:00-12:00 講師 信栄 文彦 松尾 聡幸

本ワークショップでは、担当講師が学生指導で培った教示と学習を体験いただきます。この経験を基に、児童・生徒へのSNS指導における改善策を共に練ります。ワークショップの前までは、具体的な指導方法を実践的に学びます。後半では、参加者の皆様がお持ちの経験と知識を共有し、効果的な指導アプローチを共同で構築します。

全体会 12:15-12:45

- 1.開会行事(主催者挨拶、文部科学大臣祝辞)、功労者の紹介
- 2.NHKプレゼンテーション

PM 実践発表 A 13:30- B 14:15- 講師ミニ講演 15:00-15:10

テーマ	講師	発表者A(13:30-)	発表者B(14:15-)
1 情報活用能力の育成を目的とした番組活用	日本大学 中塚 雄	北海道教育大学附属高(中) 菅野 拓	札幌市立東区小学校 西岡 裕太
	協会: 上原 優子 (札幌市立南小学校) 記録: 藤本 真(札幌市立北小学校)		
2 番組活用で実現する個別最適な学びと協働的な学び	茨城大学 小林 拓紀	川崎市立青木小学校 武井 裕樹	東京都立豊島高等学校 野村 真貴
	協会: 関根 直樹 (南砺市立中山小学校) 記録: 堀田 孝子 (新潟県立長岡南中学校)		
3 番組活用で実現する探究的な学び	神戸教育大学 藤田 裕	和歌山県立佐田高等学校 尾野 英博	東京都立豊島高等学校 野津 裕子
	協会: 塚田 和明 (千葉県立鎌田小学校) 記録: 中井 優太 (横浜市立新町小学校)		
4 授業改善のためのICT活用(学校・関係者向け)	東京福祉大学 後藤 泰博	東京都立中央工科高等学校 中竹 祐輝	江戸川区立豊島中学校 小塚 幸広
	協会: 佐藤 康(東京都立北葛城高等学校) 記録: 木村 謙(東京都立豊島中学校)		
5 GIGAスクール時代のICT活用(個人・家庭向け)	文部科学省 センター 田中 亮也	小平市立伝馬小学校 岩瀬 大樹	八王子市立南台小学校 松本 健太
	協会: 山口 千穂 (区立王子第二小学校) 記録: 森崎 真美子 (横浜市立大東小学校)		
6 自作教材のデジタル化	全国視聴覚教育連盟 丸山 裕輝	仙台市教育局 藤田 智也	全国視聴覚教育研究会専門員/関係機関関係者 中鉢 裕幸
	協会: 丸山 裕輝 (全国視聴覚教育連盟) 記録: 村上 良典 (全国視聴覚教育連盟)		

▽オンライン交流会を実施しました（9月19日（火）） 「16ミリ映写機操作講習会の現状と今後の方向性」

当連盟では、今年度視聴覚センター・ライブラリーの職員などを対象に、年2回 Zoom によるオンライン交流会を開催いたします。第1回目として去る9月19日（火）に「16ミリ映写機操作講習会の現状と今後の方向性」をテーマに交流会を開催いたしました（写真1）。当日は毎年16ミリ映写機操作講習会の講師としてご活躍されている群馬大学の立見康彦教授をお迎えし、参加者が日頃感じている質問や課題などについて、助言いただきました。

1. 日時

9月19日（火）14:00～15:30

2. 開催の目的

最近、事務局に16ミリ映写機操作講習会に関する問い合わせが増えていきます。「県内で16ミリ講習会が実施されなくなったが、他県で実施の講習会を受けられるのか？またその認定証は他県でも有効なのか？」「16ミリ講習会の講師が高齢や病気のため引き受けてもらえなくなったので、講師を紹介してほしい。」「16ミリ講習会をオンラインでやっても認定証を出せるのか？」「16ミリ映写機の修理・メンテナンスを出来る会社（団体・人）を紹介してほしい。」などです。そこで、本交流会では、16ミリ映写機操作講習会の現状とこれからを考える機会としました。

3. 参加申込者

73名（当連盟加盟団体、視聴覚教育団体、視聴覚センター・ライブラリー職員、教育委員会職員、図書館職員、映像教材製作社、16ミリ修理・メンテナンス業者など）

4. 会の流れ

14:00 開会 丸山裕輔（新潟県五泉市立愛宕小学校教諭）

14:10 事例報告1 山本 淳（岩手県教育委員会事務局盛岡教育事務所）



写真1・Zoomで実施のようす

14:20 事例報告2 小柳真一（栃木県総合教育センター生涯学習部副主幹）

14:30 立見教授からの助言

15:00 意見交流（チャットによる質問にも回答）

15:25 交流会のまとめ 丸山裕輔

15:30 閉会

5. 事前アンケート

今回多数の参加申込があったため、質問や課題を事前にアンケートとしてメールで送付いただき、当日スムーズに会が進行するようにしました。事前アンケートの回答は以下の通り。

- ・講師の高齢化、人材不足
- ・映写機の修理・メンテナンス
- ・16ミリフィルムの保管方法



写真2・複数人で研修的に視聴いただいた事例もありました（岩手会場）

- ・オンライン講習会の可能性／講師1名で最大受講者人数
- ・16ミリ映写機の購入・借用の可否
- ・フィルム保存のための複製の可否・方法
- ・映写機を保存するか廃棄するかの判断基準

- ・修了証発行の講習会で、在住在勤在学でない人は可能か

※なお、当日の話し合いの報告は後日HPなどで掲載します。

▽全国視聴覚教育連盟 功労者表彰を受賞して

今年度の功労者表彰受賞者6名のうち3名の方々より受賞の喜びの声が届きましたのでご紹介します（岩手県・吉田郁子氏、埼玉県・根岸昌史氏、北九州市・馬場重明氏）。

●岩手県・吉田郁子氏

「私のライブラリーアーカイブと未来のカタチ」

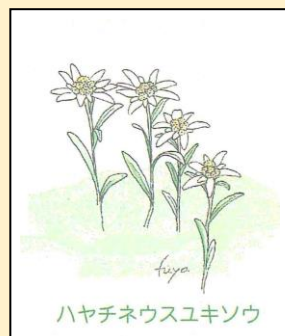


市の図書館を退職して2年半、田舎の元農家の母屋蔵納屋の3棟ある我が家のリフォームと片付廃棄、高齢の母の老老介護？にまっしぐらな毎日です。

今回の表彰に今までご指導頂いた方々と一緒に仕事に携わってきた皆様に感謝を申し上げますと共に、当時の記憶を辿ってみたいと思います。

合併前の平成9年からは、花巻地方の手工芸・まつり、先人の3作品を作成しました。手工芸の時は冒頭に各市町の花を入れようということで（確か私が言い出したような）大迫町はハヤチネウスユキソウだよ、とそのワンカットのために早池峰山（1,917m）に

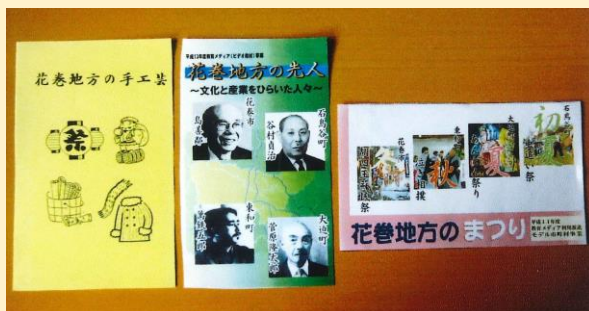
機材等を持って登山をしました。麓の方でも撮れると思い、いざ登ると「もっと咲き始めの花のほうがいいよね」と結局5合目近くまで登りました。当時のカメラマ



ンスタッフ達は若く小走りでどんどん上がり、40代のライブラリー担当の盛川さんと私は蛇紋岩の岩礫地について行くのがやっとの状態……、試写会で風になびく可憐な花を見て、あの時が人生で一番つらい早池峰山登山だったなと思い出されました。上映や個人貸出と今では貴重な資料です。

また当時協議会では毎年16ミリフィルム等の選定があり、2日間ひたすらフィルム視聴、そうして購入した資料は図書館で映画会を行い、多い時は100人以上の親子が観に来てくれました。宮沢賢治作品の時は、始まる前に関連絵本の読み聞かせや作者の紹介など郷土の作家を知る契機にもなっています。

地域では、まだまだ若年層に分類され、社会参加の機会をいただいておりますが、今後も20代から始めた郷土の伝説や昔話を紙芝居



にして後世に語り伝え遺すことや、本を介したボランティアも継続していければと考えています。

実は退職してからの夢を少しずつ叶えています。6月には遠方の学生時代の友人に会ったり(実に44年ぶり)、ずっと行きたかったアダンの実の茂る南の島の美術館をレンタカーで廻ったりと、これからは庭の樹木や植物に囲まれ、自分が嬉しいと思えること、新しいことに心が触れる、そんな時間を過ごせたらと思っています。

●埼玉県・根岸昌史氏

「春日部市視聴覚センター勤務を振り返って」



同センターは、「視聴覚教育を通して、市民の生活文化と知識教養の向上を図り、あわせて学校教育と社会教育の向上を図る」ことを目的とし、平成2年度に開設されました。

私は開設から2年後、念願の事業係主事として勤務を開始してから、令和元年度末に所長として定年退職するまで通算すると10年間、そして現在も再任用として引き続き勤務し4年目になります。

当初自ら希望していたこともありますが、長い間同センターに勤務することが出来たのは、共に業務に携わってきた多くの方々のお陰であり、深く感謝申し上げたいと思います。

この度、身に余る賞を戴けたのは、長く業

務に携わる事が出来たためであると考えられますので、当時の事業報告書をたよりに、定年退職までの勤務を振り返ってみたいと思います。

最初に勤務した平成4年度は、全国的にも珍しい施設であったため、市外からの視察が年間で34件もあり、遠くは北海道からも訪れていました。

当時の主な主催事業は、パソコン関係10事業、ビデオ関係8事業、16ミリ関係11事業、教材開発事業では、ビデオ6作品、パソコンソフト1作品を制作するなど、数多くの事業を実施しました。私にとって最初の3年間は、最も楽しく様々な事業に携わることが出来、手応えも感じ充実したものとなりました。

その後市長部局等を経験し、平成22年度から4年間と同29年度から3年間、所長として勤務した頃は、事業としては時代の変化に合わせてプログラム内容等の変更を行いました。とりわけ、全国を対象とした春日部市ビデオフェスティバルにおいては、レベルの高い作品を厳正なる審査を行い、表彰を兼ねて受賞作品の上映を行いました。これにより、同センターを全国にPRするとともに、市民にプロ顔負けの映像作品を鑑賞する機会を提供することが出来ました。

これらの事業を通し微力ではございますが、視聴覚教育の振興に寄与する事が出来たと考



えています。

また、事業を通し多くの事を経験しながら学べた事、そして市民や関係者と繋がりが持てた事は、私にとって大きな財産となっています。

●北九州市・馬場重明氏

「16ミリフィルムと子どもたち」

子どもの数が減って解散した町内の子ども会を、平成13年にたった3人の子どもで復活し、同じ区会の子ども会と合同で子ども会活動を始めました。その時、隣の区会の子ども会会長から、北九



州市AVEの会の入会を勧められ入会したのが、16ミリフィルムとの出会いです。

北九州市AVEの会とは、北九州市視聴覚センターの16ミリフィルムや教材を活用して、各種団体等の要請に応じた映写会を実施する団体です。私は八幡西区会で、主に親と子の映画会、市民センターでの映画会で、16ミリフィルムを会のメンバーと一緒に映写してきました。

子ども向けの16ミリフィルムの上映では、まず部屋を暗くします。映写が始まると3・2・1とカウントダウンが映し出され、子どもたちの映画に対する期待が膨らみます。映画が始まると、フィルムの傷が縦にあっちこち動



いたり、画像がぶれたり、音声も聞き取れなくなったりもします。今の子どもたちは、何故そうなるのか不思議に思うでしょう。子どもたちは、昔も今も映写機の光をわざと遮って映写の邪魔をします。自分の影がスクリーンに映るのを面白がり喜ぶのです。映画を見ている子どもたちは、いつの時代も変わらないと感じます。

私が子どもの頃には、夏休みに野外映写会がありました。スクリーンが風にはためいて画面が歪んだり、虫が映写機の光に集まったりも当たり前で、わくわくした夏の夜の楽しい思い出です。

今ではデジタルビデオが主流となり、コンパクトで扱いも簡単ですが、手間ひまかけて大画面で映す16ミリフィルムに比べて風情が無いと感じるのは、私だけではないでしょう。

今後も16ミリフィルムの映写、8ミリフィルムの発掘、地元の古い写真や資料などをできる限り集め、微力ながら視聴覚教育と地域の暮らしの継承に努めていきたいと思っています。

八幡西区

親と子の映画会

・ジャングル大帝「誕生」
・ムーミン「ほくは王様だ」
・なっちゃんのカヤキ
・天人女房

11月3日(日)
ごご2時はじまり
八幡西生涯学習総合センター
八幡西区黒崎3丁目15番3号
コムシティ3階 大会議室
主催：八幡西AVEの会
問合せ：090-4581-1116
入場無料 ▶ おうちの人と一緒に、どうぞ！

▽えすけーぷ

ボクシング漫画「はじめの一步」の作者である漫画家の森川ジョージさんが自身のX（旧ツイッター）で自身の思いをつづった内容が、中日スポーツ・東京中日スポーツのWeb版で紹介されていました。

森川さんは「たまにお願いベースでイラストやコメントの依頼が来るのですが自分は必ず『金額の提示が先』と小言を言います。物書きを生業としている商売の人間に無料依頼は有り得ません」と自分の考えを示し、「その立場だから言えるんじゃない?と思う方、自分は売れていない若い頃からそうしてきました。同誌面でみんなが参加して自分だけがない企画があったとしたら、それは自分のレジスタンスです」「まず金額の提示、それを見て引き受けるか否かは個々の判断です」と語っているそうです。

この記事を見たとき、自分の仕事を振り返って、果たして著作物やそれを生み出す人への正当な対価ということを考えて仕事をしてきたのだろうか?と自問しました。

行政の場合、簡単には謝礼の予算がつかない、ついても単価基準が低く、十分な予算が確保できないということが多くあります。中には、金額が低いことを「薄謝協会なので」というようにジョ

ークで言い訳するような向きもあるようですが、「行政の依頼だから安くてもやってくれるだろう」とか「あわよくば無償で」という気持ちがあったりします。

さらに、謝礼の基準もその方の肩書、大学教授なのか准教授なのか講師なのか、はたまた民間技能者なのかといったことを基に金額の段階が決められていて、その方の能力や成果、生み出したものの価値に対する評価ではありません。

行政の場合は、森川さんの指摘のように、金額の提示は後からだったり、無償でという前提で依頼をすることが普通にあるのではないのでしょうか。以前、仕事で「はじめの一步」の絵をポスターに使えないかという企画が出た際にも、無償でできないかとか、あまり謝礼は払えないという声が出ていたことを思い出しました。結局企画が変更されたので、森川さんに打診することなく終わりましたが、打診していたら小言を言われたらと思うと、反省をさせられました。

視聴覚センター・ライブラリーは、著作権者がいる映像作品を貸し出したり、上映したりすることで仕事が成り立っています。著作物を生み出す方々への敬意と価値への正当な評価ということ を忘れずに活動していきたいものです。(T. M)

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11 虎ノ門 PF ビル

TEL : 03-3431-2186 / Fax : 03-3431-2192

HP : <http://www.zenshi.jp/>

Mail : info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

中学校道徳・人権啓発

障害のある人の気持ち 私たちの一歩

中学生たちに車いすに乗ってもらい、車いすでの生活にはどのような困難や危険があるのか体験します。また、パラスリートの方へのインタビューから、どんな助けが必要とされているのか、私たちに何ができるのか考えていきます。(約18分)



字幕・副音声版付き 学校特別価格 77,000円(税込) 38,500円(税込)

国際理解・国際貢献を考える ～台湾との絆～

東日本大震災での支援や、新型コロナウイルスへの対策など、日本と台湾は困った時に協力し合ってきました。このような日本と台湾の絆を関係者のインタビューを交えて紹介し、国際理解・国際貢献について考えていきます。(約14分)



字幕版付き 学校特別価格 77,000円(税込) 38,500円(税込)

小学校道徳・特別活動

ええことするのは、ええもんや!

主人公マナブの行動や心の葛藤を通して、何のために「ええこと」をするのか? ボランティアの本質について子供たちに考えるきっかけを与えるアニメーション作品です。(約14分)



原作「ええことするのは、ええもんや!」(えほんの杜刊)
作:くすのきしげのり 絵:福田岩緒

字幕版付き 学校特別価格 77,000円(税込) 38,500円(税込)

道徳・平和教育

お父さんへの千羽鶴

ともえちゃんのお父さんは特攻隊員でした。千羽鶴に託された家族の祈りと、二度と帰れぬお父さんの想い。愛する家族と国を守るために亡くなったお父さんの姿から、平和の尊さ、家族の絆の大切さを子供たちに伝えます。(約14分)



原作 ときたひろし「お父さんへの千羽鶴」(展転社)

字幕版付き 学校特別価格 77,000円(税込) 38,500円(税込)

いじめ防止教材ドラマ

いじめ ～それぞれの想い それぞれの言い分～

この教材では、一見非があるように見えるいじめ被害者の事情、正義感がいじめに発展するまでに至った加害者の気持ち、板挟みになる傍観者の心理など、様々な立場にいる生徒を多角的に描くことで、相手の見えない事情を想像することの大切さを提起します。また「晒し」や「ステメいじめ」といった、現代特有のSNS上のいじめについても注意喚起をしています。(約23分)

令和5年度教育映像祭 優秀作品賞受賞

字幕版付き 学校特別価格 77,000円(税込) 38,500円(税込)



お問い合わせ・チラシ請求は



TEL 03(3535)3631 FAX 03(3535)3632

<https://www.toei.co.jp/edu/>

←予告欄はこちら



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>